

2018年度(対象年度:2017年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準1	理念・目的
-----	-------

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3)学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1)学部(学科)・研究科(専攻)の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧とHPなど)によって記述の齟齬	B
		(2)教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 (2)・0101 (3)・0101 (4) : 学部(学科)の教育研究上の目的と育成する人間像は、大学の基本理念・使命・教育目的及び学部の教育研究上の目的と関連させる形で明確に設定している [0101・0102a]。
0102 (1)・0102 (2) : 学部(学科)の教育研究上の目的、および、育成する人間像は、『学生便覧』(HP ページに公表)と大学HP上の「情報公表」のページにおいて広く社会に公表されており、これらの間では記述の齟齬はない。また、建物内にこれらの情報を明記した掲示を行い、所属学生にもクリアフォルダーの配布などによって周知している [0102a,0102b]。しかし、学科紹介パンフレット(紙版・HP上のデジタルブック)のレベルでは、広告媒体として高校生向けに情報を発信することが目的であるため、概して堅苦しい表現の多い教育研究上の目的や育成する人間像の記述がなかったり、噛み砕いた表現に置換していたりして、大学HPの公表情報と食い違っている記述がある [0102c]。

0101・0102：ともに、大学の担当部署がHPや『学生便覧』の更新・改定を行い、学部の自己点検・評価委員（学科主任・主任補佐）がそのつど校正することで自己点検している [0102d]。具体的には、入試面接等の際の志願者らの関心事や、社会一般の動向、時代のニーズに照らし合わせて、学部・学科の掲げる教育目標・育成人物像がずれてきていないかを点検している。その結果、教育課程は2016年度からのコミュニケーション学科の全面改定（マスメディアの衰退を反映）を含め、毎年、各学科で、微調整を行なっているが、大もとの教育目標・育成人物像自体は、2007年度の策定以来変更の必要が生じていないため、変更していない。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0101 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 各学科で、育成する人物像（卒業後に目指す進路）による履修モデルを提示（根拠資料0101・0102a参照）。
項目 No.0102 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等は、誰でも簡単にアクセスできる形で大学HPに公表「0102a」。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0102 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本語日本文化学科・英語英米文化学科・コミュニケーション学科・歴史地理学科は、大学HPの「情報公表」の「教育研究上の目的」と学科紹介パンフレットの記述が異なる（根拠資料0102b、0102d参照）。 心理学科の学科紹介パンフレットには、「教育研究上の目的」の記述がない（根拠資料0102d参照）。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> 人文学部では「Web ページ管理担当者」を2018年度より各学科に設置することを決めた。[0102e]。 英語英米文化学科ではWeb ページ管理担当者を2名選出し、「学科ホームページ委員会」を学科内で立ち上げ、定期的に学科会議で意見交換を行い、HPの教育研究上の目的等の情報を英語表記に直す等の準備をしつつある[0102f]。 コミュニケーション学科では、2017年度より、これまで履修相談や入試ガイダンスを担当していなかった学科教員も分担することとし、各教員が自ら教育研究上の目的等を便覧やHPを活用して確認するようにした。[0102g] 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
項目 No.0101 (2)・ 項目 No.0101 (3)・ 項目 No.0101 (4)	コミュニケーション学科では、2019年度で、新カリキュラムの完成年度を迎えるにあたって、育成する人間像が適切であったかなど、教育研究上の目的に沿っているか再度、教員間で確認・共有していく。
項目 No.0102 (1)	今後、学科紹介パンフレットの教育研究上の目的や育成する人間像の記述の点検を行い、必要に応じて大学HP上のものとの表現上の整合性をもたせるよう修正していく。
項目 No.0102 (1)	学科HP上の教育研究上の目的等の記述をより広く世界に公表するべく、できるだけ早期に英語化する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0101・0102	a	A	2017年度 学生便覧（該当箇所 巻頭①及び③）
0102	a	A	教育研究上の目的 人文学部 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_humanities/

0102	b	A	人文学部教育理念・使命パネル、人文学部クリアファイル
0102	c	A	学科パンフレット（教育研究上の目的・育成する人物像）（該当箇所 日本語日本文化学科 p.3、英語英米文化学科 後表紙、コミュニケーション学科 pp.1-2、心理学科 p.5、歴史地理学科 頁番号なし）
0102	d	B	2017 学生便覧原稿確認依頼
0102	e	A	2018 年度人文学部内各種委員一覧
0102	f	A	英語英米文化学科英語版 HP 下書き（公開前） 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/humanities/english/about/
0102	g	A	コミュニケーション学科 履修相談・AO ポートフォリオ入試ガイダンス担当者 2017 年度

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018年度(対象年度:2017年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準2	内部質保証
-----	-------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価(学内内部評価を含む)を自己点検・評価に取り入れていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0203 全学的な制度ではあるが、個々の教員はFD活動の一環として年度始めに「教育活動重点目標」(現「教員活動重点目標」)を設定し、年度末に「自己評価シート」による振り返りを行い、教育の質の向上と各々の資質向上に努めている。その自己評価を学科主任・学部長が点検して評価し、学部ポイント(全体の60%分)として点数化して、大学教育研究センターが運営する教育活動表彰制度に情報提供し、改善努力を奨励している[0203a]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0203	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価としては、第1期(2007年度)および第2期(2014年度)に公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、第1期では、「優れた点」として、例えば英語英米文化学科の「全員長期海外研修」について、「...協定を結んだ海外の20大学で留学や研修及び指定した課外活動団体で継続的な活動に対する単位認定制度があり、学生の社会体験を促進させている点は高く評価」とされている。これを踏まえて、(経済不況の折に「全員留学」ではなく「希望者全員留学」に変更したものの)今日まで長期海外研修はさらに内容を充実させつつ継続している。 内部の自己点検・評価としては、毎年実施している「教育活動重点目標・自己評価シート」による目標設定、および、その達成度自己評価によって実施している。これは、『魅力ある授業づくり』のための担当科目の改善など授業方法に関する目標を必須項目とし、「学生の指導、支援活動(勉学、課外活動、就職など)」、「教育の効果を高める新しい試み」、「学内行政上の委員等の活動および関連業務」のうちから1つ程度を選択して目標を設定する形式[0203b]。 年度末には、設定目標を3段階評価(充分達成・ほぼ達成・届かず)で評価し、成果の総括と達成にあたっての問題点・困難などを記し、課題の把握を行なっている(根拠資料 [0203b]参照)。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0203	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価では、評価者の性格により本質的でない差が生じるため、学部ポイントにおける自己評価分の比率を下げる必要あり。 自己評価シートは、教育や行政の質ばかりを追って、研究が過小に評価されている。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
全学的に、「教育活動重点目標・自己評価シート」から「教員活動重点目標・自己評価シート」に変わり、研究活動の過少評価が多少是正された[0203c]。また、2018年度に向けて学部ポイントの評価基準・方法の見直しを行った[0203d]。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0203	内部質保証システムをより有効に機能させるため、2017年11月15日開催の大学協議会において自己点検・評価実施要項が承認・施行され、2018年度から実施されることが大学HP上で公表されている[0203e]。この中で、学部ごとの自己点検・評価結果に対し、ピアレビュー委員会による学内内部評価が実施されることが、中部大学自己点検実施要項に明記されている[0203f]。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0203	a	B	2017 優秀賞学部ポイント入力表4
0203	b	A	2017 教育活動重点目標・自己評価シート
0203	c	A	2017 教員活動重点目標・自己評価シート
0203	d	A	2018 教育活動顕彰制度要項（該当箇所p.11）
0203	e	A	中部大学の自己点検・評価 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/self_evaluation/
0203	f	A	中部大学自己点検・評価実施要項

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018年度(対象年度:2017年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準4 教育課程・学習成果(1)

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、卒業認定・学位授与の方針(DP)を定めて、公表していますか。	(1)課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した卒業認定・学位授与方針(DP)の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・卒業認定・学位授与方針(DP)の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針(CP)を定めて、公表していますか。	(1)学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施方針の設定になっていますか。	A
		(2)学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施方針の設定になっていますか。	A
		(3)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4)卒業認定・学位授与の方針(DP)と教育課程編成・実施の方針(CP)は適切な連関性となっていますか。 ・「卒業認定・学位授与の方針(DP)」⇔「教育課程の編成・実施方針(CP)」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施方針(CP)に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1)教育課程の編成・実施方針(CP)と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。(ナンバリング、カリキュラムマップ)	A
		(3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5)授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針(CP)に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401 (1)・0402 (1)	学位授与方針 (DP) および教育課程の編成・実施方針 (CP) は、2016 年度に策定され、2017 年 2 月の人文学部定例教授会において構成員が最終版を確認した [0401・0402・0403a]。
0401 (1)・0402 (3)	DP・CP は、大学 HP 上の「情報公表」のページで広く公表されている [0401・0402a]。
0401 (1)	学部 (学科) の DP は、「社会で必要とされる知識・技能」、「知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性をもって多様な人間と協働し、学び続ける態度」、「広い関心・自律的意欲」の 4 領域の能力について適切に設定されており、大学 HP 上のものと同じものが『学生便覧』にも明記され、毎年の便覧改定の際に学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している [0401・0402b]。
0402 (2)	CP では、DP に掲げた目標達成のために、各学科が「教育内容」、「教育方法」、「教育評価」を定めて、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、学科横断的教科などを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせる実施することが『学生便覧』に明記され、毎年の便覧改定の際には学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している [0401・0402b]。
0402 (4)	DP と CP の整合性については、2016 年度の策定の際に一貫性を持たせることに特に留意して作成され、DP の 4 領域の能力に対応させる形で CP においても 4 つの教育内容が立てられ、体系的に教育課程が編成されて『学生便覧』に明記され、毎年の便覧改定の際には学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している [0401・0402b]。
0403 (1)	2016 年度の CP 策定の際に、教育課程との整合性についても特に留意して検討されており、2017 年 2 月の人文学部定例教授会において承認されている [0401・0402・0403a]。
0403 (2)	教育課程の編成に当たっては、2016 年度より導入した科目間の関連や科目内容の難易度を表現する科目ナンバリングに留意して、CP に沿った体系的、かつ、学習内容の順序性を考慮した科目の配置を行い [0403a]、カリキュラムマップによってその体系を明示し、教育課程の変更のつど、改定している [0403b]。
0403 (3) ~ (7)	各学科の主任を中心とする教務委員が、翌年度の授業編成作業時に、各科目の「カリキュラムの中での位置付け」と DP に対応した「身につく基礎力」、単位制度の趣旨に沿った単位設定であること、選択/必修などの設定を確認している。これらの項目は、Web ページ上のシラバス入力の際には固定されており、科目担当者は、これらに留意しつつ授業の「具体的達成目標」を設定している [0403c]。
0403 (4)	初年次教育、キャリア教育等は、全学共通教育科目として適切に配置されている [[0403d]。
0403 (3) ~ (7)	英語英米文化学科では、特に英語系クラスについて定期的に学科会議で意見交換を行い、問題点等を話し合っている [0403e]。
0403 (3) ~ (7)	なお、心理学科においては、2018 年度からの公認心理師資格課程導入に向け、カリキュラムの改編を行った。カリキュラム改編の際に学科教員全員で単位の設定および授業内容と方法、授業科目の位置づけ、配置の適切性等についての確認・見直し作業を行い、カリキュラムマップに反映させた [0403f]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	

項目 No.0402	<ul style="list-style-type: none"> 歴史地理学科では、歴史学と地理学とを2本の軸として、現代の事象や問題を複合的に考察するという本学科の特色が強調されている[0403g]。
項目 No.0403 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 科目ナンバリングを導入し、学生の履修指導に活用している点[0403a]。 カリキュラムの体系化を視覚的に明示したカリキュラムマップを作成している点[0403b]。
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0403 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 各学科でカリキュラムマップは作成しているが、現在大学のHP上では公表停止。
項目 No.0403 (4)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション学科では、2016年度に導入した新教育課程が進行する中、個々の科目の内容や教育方法が、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成しているのか否かを検証する必要あり。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
心理学科においては、公認心理師資格課程導入のため、単位の設定、および、授業内容と方法・授業科目の位置づけ・配置の適切性等についての確認、見直し作業を行い、カリキュラムマップを作成した [0403f]。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0401・0402	心理学科においては、改編後のカリキュラムに対して、その成果と内容についての定期的な確認・点検のための方法を検討していく。
0403 (2)	大学HPでカリキュラムマップの公開が停止されている間に、それぞれのマップの更新を行い、よりわかりやすい、充実したものを作成する。
0403 (4)	コミュニケーション学科では、2016年度より導入した新教育課程が来年度完成年度を迎えるにあたり、授業の方法や内容、想定している学生の能力育成への実際の効果を検証していく。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0401・0402・0403	a	A	2016年度 人文学部第10回定例教授会議事録
0401・0402	a	A	3つのポリシー 人文学部 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/ 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/ 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/ 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/ 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/ 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/
0401・0402	b	A	2017年度 学生便覧(該当箇所 巻頭⑱～㉔)(根拠資料0101・0102a 参照)
0403	a	A	2017年度 科目ナンバリング表
0403	b	A	カリキュラムマップ
0403	c	A	シラバスサンプルページ https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2018&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12926&value(crclumcd)=01040000002016
0403	d	A	2017年度 学生便覧(該当箇所 p.148, p.155, p.166, p.174, p.181)(根拠資料0101・

			0102a 参照)
0403	e	A	英語英米文化学科 2017 年度第 1 回~第 18 回学科会議議事録
0403	f	A	カリキュラムマップ (該当箇所 p.4) (根拠資料 0403b 参照)
0403	g	A	3 つのポリシー 人文学部 (該当箇所 pp.11-12) (根拠資料 0401・0402a 参照) 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018年度(対象年度:2017年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準4 教育課程・学習成果(2)

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A:適切に取り組んでいる」「B:概ね取り組んでいる」「C:改善すべき点がある」「D:今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1)各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	A
		(2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行なわれていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を講じていますか。	A
		(4)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2)既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	B

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	B
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続は明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404	(1) 学部全体として各学期に履修登録単位数の上限を設けて『学生便覧』に明記し、毎年の『学生便覧』改定時に、各学科の主任を中心とする教務委員が点検している [0404a]。
0404	(2) シラバスには、「身につく基礎力」、「授業の趣旨（概要）」、「具体的達成目標」、事前・事後学修（準備や課題）を含む毎回の「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が明記されている[0404b]。また、第三者によるシラバス点検を実施し、授業主旨、授業計画（授業内容・事前事後の学修）、授業方法、評価方法などが DP・CP に基づく「カリキュラムの中での位置付け」と DP に対応した「身につく基礎力」などにふさわしいか否かを判断し、不備がある場合には科目担当者に修正を求めている[0404c, 0404d, 0404e, 0404f, 0404g]。授業内容とシラバスの整合性の確保に関しては、学期末に実施される「学生による授業評価」の中の「自由記述欄」などに依存している（これを問うアンケート項目が存在しないため）。学部教育科目に関しては、概ねシラバスから大幅に逸脱しているという不満は見られないが、全学共通教育科目に関しては、シラバスとは異なる内容であった旨の記述も見受けられる[0404r]。ただし、基本的にはこの点検は科目担当者本人が行っており、改善も担当者の良心に委ねられている。
0404	(2) 授業内容とシラバスとの整合性の確保に関しては、学期末に実施される学生による「授業評価」アンケートの集計結果や自由記述、教務モニター制度の学生意見等から間接的に検証しているが、改善については科目担当者の裁量に任せられている [0404h]。
0404	(3) 学生の主体的参加を促すために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れた教育方法を実践することを CP（「教育方法の」項目）に定めており、CP に沿った授業内容となっているかについては、シラバスの第三者点検により確認し、必要に応じて科目担当者に修正を求めている（根拠資料[0404c, 0404d, 0404e, 0404f, 0404g]参照）。
0404	(4) 授業編成および管理運営に関して、全学共通教育科目などを中心に、授業形態や内容、必要設備に応じて受講者数の制限を設けている[0404i]。また、必修科目などでは、複数クラスを設置し、少人数クラスにすることで全受講生に目が行き届くよう配慮している[0404j, 0404k, 0404l, 0404m]。特に、心理学科においては、受講者数の多い実習形式の授業（心理学実習 A~D）では、全受講生をフォローできるように、非常勤講師を複数名採用し、対応している [0404n]。授業形態や内容、受講者数の制限に関しては、毎年の授業編成の際に教務支援課から提供される科目ごとの受講者数一覧を参考に、学科主任を中心とする各学科の教務委員が検討し、適正であることを確認している[0404o]。
0404	(4) 履修指導ガイダンスに関しては、毎学期開始前のオリエンテーション内で行い、翌日には、履修に関する個別相談の時間を設けている[0404p]。さらに、コミュニケーション学科においては、上級生による「履修ピア」制度を設けて履修関係のアドバイスをを行っている [0404q]。
0405	(1) シラバスに掲げた「達成目標」に基づく「成績評価の方法」「成績評価の基準」に従って成績評価が実施されているかについては、概ね各教員の裁量によるが、成績評価に疑問がある場合、受講生が一定期間内に確認を願

い出ることができる制度を設けている（2017年度は2018年2月21日まで）[0405a]。	
0405 (2)	留学や編入学に伴う既修得単位の認定に関しては、中部大学学則第10条・第11条に明記されており、具体的な科目の認定については、各学科の主任を中心とする教務委員が必要に応じて協議し決定し、教務課に提案した上で、教授会で承認することで適正であることを確認している [0405b]。
0405 (3)	成績評価方法の客観性・厳格性に関しては、「成績評価の方法」「成績評価の基準」に対してシラバスの第三者点検を実施し、確認している [0405c, 0405d] が、実際に客観的、かつ、厳格に成績評価が行われているかを組織的に確認しているわけではない。複数担当者による一部の学科の基幹必修科目などでは、担当者全員の成績を共有し、場合によってはクラス間の調整を行うなどして成績評価の客観性・厳格性を保っている [HH 成績調整の根拠資料, 0405e, 0405f]。その他の科目では、上述の「受講生による成績確認の願い出制度」と、『教育・研究活動に関する実態資料』に公表される各科目の成績分布状況 (S/A/B/C/E 評価の比率) により、問題が生じた場合に各学科の主任を中心とする教務委員などが確認している。 [0405g] (ただし、2017年度の授業科目に関しては、2018年度秋学期にならないと公表されない。)
0405 (4)	卒業要件は、中部大学学則第18条、別表2、およびDPに明記されており、学生に対しては、『学生便覧』でも示し、各学期前のオリエンテーション時に周知している [0405h, 0405i, 0405j]。
0405 (5)	学位論文審査基準は、各学科の「卒業研究」のシラバスの「成績評価方法」「成績評価基準」に項目としては明記されている [0405k] が、概ね、例えば「論理性」、「実験調査の緻密さ」、「結論の導き方」などの評価項目が列挙されているだけで、どの程度のものがどのような評価を得るのかの基準は明文化されていない。英語英米文化学科やコミュニケーション学科では、「卒業研究／卒業マニュアル」を作成し、求める水準を示している [0405l, 0405m]。
0405 (6)	学位審査の客観性および厳格性を確保するために、各学科とも、卒業研究を4年間の集大成とみなして学位審査の中核ととらえ、副査制度・複数教員による口頭試問や卒業研究発表会などにより、各学生の4年間にわたる学修成果の到達度等を評価し、また、卒業要件を満たしているかを厳格に精査した上で、人文学部教授会の中で最終的な卒業判定の合意をとっている [0405n, 0405o, 0405p, 0405q]。
0405 (7)・0405 (8)	学位授与に係る責任体制、および、手続は、中部大学学位規程に示されている。また、学位授与に関しては、人文学部教授会において卒業認定がなされ、中部大学学位規程に則り卒業認定されたものに授与される [0405g, 0405s]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0404・ 項目 No.0405	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年のシラバスの第三者点検により教育内容、授業計画、成績評価基準等の適切性を維持 [0404c, 0404d, 0404e, 0404f, 0404g]。
項目 No. 0405 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学位論文審査を副査制度・複数教員による口頭試問や卒業研究発表会などにより実施している点 [0405n, 0405o, 0405p, 0405q]。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0404 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ● シラバスと授業内容と整合性については、「授業評価」の結果から間接的に検証するしかない点。
項目 No.0405 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際に成績評価がシラバス記載通りに実施されているかを点検する方法の検討が必要。 ● 学位論文審査における評価基準方法の詳細を明文化・公表して客観性を確保することが必要。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> ● シラバスの第三者点検により、教育内容、授業計画、成績評価基準等の適切性が確認された[0404c, 0404d, 0404e, 0404f, 0404g]。 ● コミュニケーション学科では、2018年度の授業編成を作成する際に、授業形態に配慮し、新たに受講者数の上限を設けたり、最初から複数クラス開講になるように改善を行った [0405t]。 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
No. 0404 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ● シラバスと授業内容と整合性について、より直接的に検証できる方法を検討
No. 0404 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ● さらに学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容・方法を各学科で検討

No.0405 (3)	• 成績評価実施状況に関する各教員の自己点検方法の検討
No.0405 (5)	• 学位論文審査において評価基準の明文化・公表の検討

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0404	a	A	2017 年度 学生便覧 (該当箇所 p.146, p.153, p.164, p.172, p.179) (根拠資料 0101・0102a 参照)
0404	b	A	シラバスサンプルページ (根拠資料 0403c 参照)
0404	c	A	HF シラバスの第三者点検依頼メール
0404	d	A	HI シラバス第三者点検不備修正依頼メール
0404	e	A	シラバス記載内容における第 3 者点検について (依頼) HW
0404	f	A	2017 年度 心理学科第 10 回学科会議議事録 報告事項 8
0404	g	A	2017 年度第 10 回学科会議議事録・シラバス第三者点検の報告 HH
0404	h	A	「学生による授業評価」「教員による自己評価」の設問 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/class_evaluation/
0404	i	A	2017 受講者数制限科目一覧
0404	j	A	HF 複数クラス開講一覧
0404	k	A	HI 複数担当科目調査表
0404	l	A	HW 平成 29 年度必修科目複数クラス開講一覧
0404	m	A	HH 複数クラス開講科目のクラス編成
0404	n	A	2017 年度 Tora-net シラバス検索結果 (心理学実習) 大学 HP https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbsskgr.do
0404	o	A	2017 年度春学期開講クラス数・受講者数一覧
0404	p	A	履修相談一覧
0404	q	A	HI 学科オリエンテーション時の履修ピア依頼メールと返信
0404	r	A	魅力ある授業づくり (全学共通教育科目サンプル)
0405	a	A	学生部便 No.180
0405	b	A	2017 年度 中部大学学則 (該当箇所 p.3-4) 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/5592/5592_da0c8e86c01f5b8fd2feab4fed702479.pdf
0405	c	A	シラバス記載内容における第 3 者点検について (依頼) (根拠資料 0404e 参照)
0405	d	A	2017 年度 心理学科第 10 回学科会議議事録 報告事項 8 (根拠資料 0404f 参照)
0405	e	A	HI スタートアップセミナー運営マニュアル
0405	f	A	HH 2015 年度 スタートアップセミナー成績確認
0405	g	B	『2016 年度版教育・研究活動に関する実態資料』(2017 年度版は未刊)
0405	h	A	2017 年度 中部大学学則 (該当箇所 p.6) (根拠資料 0405b 参照) 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/5592/5592_da0c8e86c01f5b8fd2feab4fed702479.pdf
0405	i	A	3 つのポリシー 人文学部 心理学科 (根拠資料 0401・0402a 参照) 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/
0405	j	A	2017 年度 学生便覧 (該当箇所 p.11) (根拠資料 0101・0102a 参照)
0405	k	A	卒業研究シラバス (全学科)
0405	l	A	HF 卒論マニュアル
0405	m	A	HI 2017 年度卒業研究マニュアル
0405	N	A	HF 主査副査一覧
0405	o	A	HI 2017 年度ポスター発表スケジュール・提示場所
0405	p	A	HW 平成 29 年度 卒論審査制度と成績評価までの流れ

0405	q	A	HH 2017 年度 卒論口頭試問
0405	r	A	平成 29 年度人文学部第 11 回定例教授会議事録
0405	s	A	2017 年度 中部大学学位規定 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/5592/5592_7bb2f028a9eefce4d64bb5faabb0e201.pdf
0405	t	A	HI 授業時間割編成依頼表

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度: 2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 4 教育課程・学習成果 (3)

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A: 適切に取り組んでいる」「B: 概ね取り組んでいる」「C: 改善すべき点がある」「D: 今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	卒業認定・学位授与方針(DP)に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1)学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	A
		(2)成績分布、試験放棄(登録と受験の差)、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3)学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切なエビデンスに基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0406 (1)・0406 (3) 学生の学習成果を測るために、GPA (Grade Point Average) 制度を導入し、成果の確認及び学習指導に用いている [0406a]。
0406 (2) 学習成果に関する情報の把握と共有方法として、学生の出席状況、単位取得状況、各科目の成績、各学期のGPA等が、中部大学教育支援ポータルサイト (Tora-net portal) が用意されており、指導教授は指導生の情報を常にチェックしている。また、進級状況は人文学部教授会において共有されている [0406b] [0406c]。さらに、成績分布と試験放棄(登録と受験の差)については、科目単位では、毎年刊行される『教育・研究活動に関する実

<p>態資料』に各科目のデータで検証することができるが、学部学科全体での分布や放棄率は把握していない[0406d]。 0406 (3) 英語英米文化学科では、学習性の測定方法として TOEIC を年間定期的実施し、その結果データを蓄積・分析し、習得度別クラス分けの参考としている[0406e]。 0407 (1) 授業内容及び方法の適切性については、学生の授業評価アンケートに基づき、教員各自が点検・評価を行い、次年度以降の改善につなげている。また、学習成果として GPA および単位取得率を用い、特に単位取得率の低い学生には、当該学期末から翌学期始めにかけて面談を行って面談記録を残すなど、個別指導に活用している [0407a] [0407b]。 0407 (2) 各教員が年度ごとに重点目標を掲げ、年度末に達成度および改善点について自己点検・評価を実施し、次年度以降の改善・向上に努めている [0407c]。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.0407 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中部大学教育支援ポータルサイトにおいて、学生の単位取得状況を把握し、取得単位数の少ない学生に対する個別指導を実施し、共有のために Web 上に記録を残している [0407b]。
項目 No.0407 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員個々の水準で、重点目標を掲げ達成度をチェックする循環的な評価システムが活用されている [0407c]。
<p>課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点</p>	
項目 No.0406 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学卒業認定・学位授与方針(DP)に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価するための卒業生・就職先への意見聴取に関しては、包括的な調査には至っていない。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習成果が不十分な学生に対する個別指導の実施 [0407b]。 ● 教員個人の重点目標の設定および自己点検・評価により、次年度以降の改善・向上に努めている [0407c]。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
No.0406 (3)	卒業生の就職追跡調査をキャリア支援課の協力の下に行っていく。
No.0406 (3)	英語英米文化学科では、学科 20 周年記念祝賀会にて卒業生からのヒアリング調査・アンケート調査を実施する予定。
No.0406 (3)	学部設立 20 周年記念行事(2018 年 6 月 27 日)にて、卒業生から「人文学部でよかった?!」というテーマで教育課程や学習成果に関する評価を語ってもらう予定。
No.0406 (3)	コミュニケーション学科では、新カリキュラムが 2019 年度に完成年度を迎えるにあたって、卒業生や就職先などの追跡調査を実施し、新教育課程の成果を点検する予定。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0406	a	A	『2017 年度版 学生便覧』 GPA 制度 (該当箇所 p.4) (根拠資料 0101・0102a 参照)
0406	b	A	Tora-Net portal 大学 HP https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/top.do
0406	c	A	2017 年度 人文学部第 12 回教授会議事録
0406	d	B	『2016 年度版教育・研究活動に関する実態資料』 (2017 年度版は未刊)
0406	e	A	英語英米文化学科 TOEIC スコア
0407	a	A	授業評価集計結果の公表 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/class_evaluation/
0407	b	A	取得単位数の少ない学生の保証人への通知について (依頼)

0407	c	A	2017 教育活動重点目標・自己評価シート（根拠資料 0203b 参照）
------	---	---	--------------------------------------

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

年度(対象年度): 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準5 学生の受け入れ

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP)を定めて、公表していますか。	(1)卒業認定・学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2)明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とHP等の媒体間の記述の統一	B
		(3)社会に対し公表していますか。	A
		(4)下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP)の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP)に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1)入学者受入れの方針(AP)と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2)入学者受入れの方針(AP)に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施方針(CP)と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3)入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4)公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5)入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・学部内委員会等においてエビデンスに基づいた定期的な検証	A
		(2) 点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0501 (1) 卒業認定・学位授与の方針 (DP) および教育課程編成の方針 (CP) に定める教育を受けるために必要な「求める人間像」を学部 (学科) において AP で設定し、受入方針として規定している[0501・0502a]。
0501 (2) 入試要項では大学 HP 上の「情報公開」のページの AP を参照するように記述されているため、記述に齟齬はない [0501a]。
0501 (3) AP は、大学 HP 上の「情報公開」のページで広く社会に公表している [[0501・0502a]。
0501 (4) AP は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の学生像、および、判定方法を踏まえたものになっている [0501・0502a]。
0502 (1) 受入れ方針は、入試種別ごとに求める人間像が明記されており、試験形態と対応している[0501・0502a]。
0502 (2) CP に定める教育を受けるために必要な能力を判定できる試験方法をとっている[0501・0502a,0502b]。
0502 (2) 入学者選抜において透明性を確保するための措置の一つとして、過去問題を公表している[0502a]。
0502 (3) AO ポートフォリオ入試は、概ね各学科の主任・主任補佐等が主担当となり、原則としてほぼ全員参加で運営されている [0502・0504a,0502C]。また、その他の入試においては、大学の入試・選抜委員会の場で判定結果の原案が示された後、各学科の主任・主任補佐が学部の入試・選抜委員会にてその原案の検討を行い、調整を図っているため、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされている [0502d]。
0502 (4) AO ポートフォリオ入試は、特に CP に定める教育を受けるために必要な「求める人間像」に合致しているかに留意して、担当者全員の合議により公正に選抜している [0502・0504b]。
0502 (5) 出願資格に障がいの有無や出自などは設けておらず、全ての受験者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していると言える[0502e]。
0503 (1) 定員に対する入学者数比率／編入学生数比率、収容定員に対する在籍学生数比率、収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応は、入試における合格者数、および、退学者等の抑制努力により、極力調整している。学科／学年によっては、定員超過／定員割れなどがあるが、これは主に入学者数の違いによるものである[0503a,0503b]。
0504 (1) 学部・学科主導で行われる AO ポートフォリオ入試の実施方法については、過去の入学生の入試時の状況

とその後の学習成果等を資料として、各学科で必要に応じて検討している[0502・0504a,0504a]。 0504 (2) AO ポートフォリオ入試の実施方法について、毎年の入試要項の改定に合わせて学科会議等で適切性を検討し、APに基づき適宜改善・向上が行なわれている[0502・0504a,0504a]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0501 (3)	• 英語英米文化学科では、入学者受け入れの方針を受験者に分かりやすく伝えるために学科 HP で発信[0501b]。
項目 No.0502 (2)	• AO ポートフォリオ入試は、各学科が独自の試験方法（発表、実習等）と面接で実施し、最も「顔の見える」選抜方法である。
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0502 (2)	• AO ポートフォリオ入試で入学した学生は、学科の「顔」となり活躍する者も多い。
項目 No.0503 (1)	• 学科によっては、収容定員に対する在籍学生数の未充足があるため、志願者を増やすためのさらなる努力が必要[0503a,0503b]。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> 併設校（中部第一高等学校）からの推薦入学者に関して、できる限り各学科の教育内容に合う生徒を推薦してもらうために、併設校懇談会を実施している。2017年度は、第一回を2017年10月24日17:10-18:30に中部大学で行い、推薦されてくる生徒に関する詳細な情報を得た。また2018年3月16日15:30-17:00に第二回を第一高校で実施し、第一高校出身者の近況報告を行った [0502g,0502h]。 受験者の多様性化に合わせて、入試の種別毎の募集定員の割合を変更した。 2017年度よりAO入試にポートフォリオが活用されるようになり、選抜のための情報が増えた [0502b]。 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0502 (2)	2017年度から導入されたAOポートフォリオ入試における課題内容・質問事項、ポートフォリオに求める情報の適切性の検証を行う。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0501・0502	a	A	3つのポリシー 人文学部 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/
0501	a	A	2018年度入試 入試要項（該当箇所 p.1）
0501	b	A	英語英米文化学科のHP上の受け入れ方針説明
0502	a	A	平成29年度入試 過去問題ダウンロードサイト https://adm.chubu.ac.jp/entrance_exams/questions/2017/index.html
0502・0504	a	A	2017年度第1回心理学科会議議事録
0502・	b	A	2017年度第5回心理学科会議議事録

0504			
0502	b	A	受験ガイド2018 (該当箇所 p.6-22).
0502	c	B	2018年度入試 AO入試担当者一覧
0502	d	A	2018年度入試 学部内入試・選抜委員会日程
0502	e	B	2018年度入試 入試要項
0502	g	A	2017年度第1回併設校懇談会報告書
0502	h	A	2017年度第2回併設校懇談会報告書
0503	a	A	中部大学入学者数 (2017年度) https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-01.pdf#page=1
0503	b	A	中部大学在籍者数(学部) (2017年度) https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-02.pdf#page=1
0504	a	A	コミュニケーション学科 AOポートフォリオ入試選抜方法検討メール記録

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

年度(対象年度): 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準6 教員・教員組織

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A: 適切に取り組んでいる」「B: 概ね取り組んでいる」「C: 改善すべき点がある」「D: 今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	B
		(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(3)学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	A
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2)規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1)FD 活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
0605	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切なエビデンスに基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602 (1) 大学設置基準の人数は満たしているが、学科により偏りが見られる[0602a,0602b]。	
0602 (2) 英語英米文化学科を除き、概して教授の人数が多く、准教授・講師が少ない配置となっており、従って年齢構成的にも全体的に若手が少ない。また、男女比では、英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科で女性教員が少ない[0602b,0602c]。	
0602 (3) 教養教育の運営体制は、全学共通教育部において整備しており、全学共通教育科目の担当者の一部は、人文学部に所属して学科の科目を担当する者もあり、逆に学科教員も一部の全学共通教育科目を担当している[0602f,0602g,0602h]。	
0603 (1) 教員の募集・採用・昇格等に関する規程、および、手続きの流れについては「中部大学教員資格基準」、「中部大学教員資格基準に関する申合せ事項」、2015年4月に策定された「中部大学における教員人事の進め方：教員力の組織的な整備充実に向けて」、および、「人文学部昇格基準申し合わせ」によって整備されている[0603a,0603b]。	
0603 (2) 大学の人事担当常勤理事・副学長がワーキング・グループを開き、学部（学科）からの募集、採用、昇任等の願出に対して、規程等に従った適切な教員人事が行われるよう調整している。	
0604 (1) 学部長と5学科のFD委員、人文学部事務長の7名で構成する人文学部FD委員会を設置し、FD活動を組織的かつ多面的に実施している[0604a,0604b]。	
0604 (2) 前年度末に次年度の重点目標の設定を行って、全学のFD委員会に提出し点検を受け、当該年度の翌年度始めに目標の達成度を振り返る活動報告書を全学のFD委員会に提出して点検を受け、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげている[0604c]。	
0605 (1) 毎年刊行される『教育・研究活動に関する実態資料』にて公表される個別研究者の研究活動の状況、教員組織の状況などから、教員組織の適切性が検証できる[0605a]。『教育・研究活動に関する実態資料』の「I 教育活動」の「3.授業の開講状況」の「(4)③成績評価分布状況」から、各人の教員としての素養がある程度判断できる。また、「II 研究活動」の「1.著書・学術論文・研究発表の状況」からは、各人の研究者としての素養がある程度判断できる。さらに、「III 教員組織の状況」の「1.法令定員と教員組織」から法的な適切性は判断できる。また、「2.大学教員の構成」から、年齢別、男女別、職名別教員構成や、他学部他学科に比しての相対的な状況などがわかり、教員組織の適切性が検証できる。また、毎学期末に実施される「魅力ある授業づくり」授業評価アンケートの特に学生による自由記述から、授業運営やクラス運営の状況が把握でき、教員としての資質等が判断できる場合がある[0605b]。特に大きな問題を抱えていそうな場合は、学部長等が個別に話を聞くなどして改善のための方策を一緒に検討する場合もあるが、通常は、自由記述に対するコメント欄に見るとおり、担当者が自ら改善に努めている。	
0605 (2) 『教育・研究活動に関する実態資料』などのエビデンスから教員組織の適切性の検証が行われるものの、人事関連の問題は経営サイドの事情にも関わるため、必ずしも教学サイドの努力だけでは改善できない[0605a]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0602 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 英語英米文化学科では、日本だけでなく海外での博士号取得者を含む教員による指導体制を整備[0602d]。 コミュニケーション学科では、学位課程の目的に即した教員の配置として、理論と実務の両方の分野の教員を配備[0602e]。
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.0602 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 日本語日本文化学科と心理学科において、CPに掲げる教育課程の授業科目を担当する専任教員の採用が急務。 英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科において、若手・女性教員の比率が低い。 コミュニケーション学科では、「人文学部昇格基準申し合わせ」に基づく昇格人事の実現が急務。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> 心理学科においては、発達心理学・社会心理学・教育心理学の専任教員の採用を発議し、結果として発達心理学・社会心理学各1名の教員を採用できたが、どちらも男性で、男女比は是正されていない[0602c,0602i]。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0602 (2)	英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科において、若手女性教員を採用できるよう人事関連担当者に働きかける。
0602 (2)	心理学科は、2021 年度以降の公認心理師対応カリキュラムにおける実習の開始と相談室開設に備えて臨床系専任教員の強化を図り、また教授が教員数の半数に満たなくなってしまうため、昇格または採用で是正する。
0602 (2)	コミュニケーション学科では、「人文学部昇格基準申し合わせ」に基づく昇格人事を引き続き要請する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0602	a	A	中部大学 法令定員と教員組織 (2017 年度) https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-05.pdf#page=1
0602	b	A	中部大学 教員数 (2017 年度) https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-06.pdf#page=1
0602	c	A	人文学部各学科所属教員 https://www3.chubu.ac.jp/japanese/faculty/ https://www3.chubu.ac.jp/english/faculty/ https://www3.chubu.ac.jp/communications/faculty/ https://www3.chubu.ac.jp/psychology/faculty/ https://www3.chubu.ac.jp/history/faculty/
0602	d	A	英語英米文化学科専任教員学位 (海外大学)
0602	e	A	コミュニケーション学科専任教員 (実務・理論)
0602	f	A	全学共通教育科目人文リテラシー授業編成
0602	g	A	全学共通教育科目社会リテラシー授業編成
0602	h	A	2017 年度人文学部共通教育科所属教員の人文学部の科目担当
0602	i	A	心理学科構成員 2017 年 4 月 1 日現在・2018 年 4 月 1 日現在
0603	a	B	『中部大学における教員人事の進め方：教員力の組織的な整備充実に向けて』
0603	b	A	人文学部昇格基準申し合わせ
0604	a	A	2017 年度学部等におけるFD活動評価点検報告書
0604	b	A	心理学科FD 後援会配布資料
0604	c	A	2017 年度 学部等におけるFD活動推進計画一覧
0605	a	B	『2016 年度版教育・研究活動に関する実態資料』(2017 年度版は未刊行)
0605	b	A	魅力ある授業づくり (学部教育科目サンプル)

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018年度(対象年度:2017年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準7 学生支援

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	A
		(4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的(安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等)の支援	A
		(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生のキャリア支援を行うための体制(学部との協力・連携を含む)の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施	A
		(6)インターンシップは十分に実施していますか。	A
		(8)学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。

- 0702 (2) 大学全体としては、学生の能力に応じて補習教育、補充教育などを学習支援室において行なっており、学習支援室に関しては、各学科のオリエンテーション時にパンフレットを配布するなどして存在を周知している[0702a]。またどの学科も基本的に3・4年次には少人数制の演習授業(ゼミ)を設置し、学生の能力・志向に応じたきめ細かな修学支援を実施し、これらゼミの指導教員が補習・補充教育についても個別対応によって実施していることが多い[0702b, 0702c, 0702d, 0702e, 0702f]。
- 0702 (2) 正課外教育としては、大学全体で独自の資格(地域活性化リーダー・地域創生メディエーター等)や留学プログラム等を用意して、座学に留まらない豊かな体験を提供している[0702g, 0702h, 0702i]。英語英米文化学科では、学生が興味をもっている業種の外部講師や卒業生を招いて月に1回程度のセミナーを開いている[0702j]。
- 0702 (2) 留学生、障がいのある学生等の多様な学生に対する修学支援は、大学全体としては、国際センター(留学生)や学生相談室・保健管理室(障がいのある学生)が行なっているが、学科においては主に指導教授が対応しており、大きな問題の場合は学科会議の議題として学科全体で対応している[0702k, 0702l, 0702m]。
- 0702 (2) 成績不振者については、中部大学教育支援ポータルサイト(Tora-net portal)で指導教授が日常的に状況把握に努めており、また、学期末に教務課より届く単位取得不足学生の一覧により指導対象学生を呼び出し、状況把握と指導を行い、後の指導教授等のためにWeb上で報告書を作成して共有できるようにしている。合わせて、紙版で学科主任の点検を経て教務部長にも提出し、点検を受けている[0702n, 0702o]。英語英米文化学科では、定期的に学科会議により学科全体で情報を共有している。また、その他の学科でも、必要に応じて学科会議の場で情報を共有している[0702zo][0702zp][0702zr]。
- 0702 (2) 留年者については、単位取得不足学生として主に年度末から年度始めにおいて、指導教授が呼び出し指導を行って状況把握をするとともに、履修指導を行っている[0702n, 0702o]。休学者・退学希望者については、指導教授が面談して状況を把握した上で学長宛の意見書を作成し、主任・学部長の点検を受けた上で教務課を経て、教授会で審議している。人文学部では、早期予防に活用すべく、独自に休学・退学理由の集計を行っている[0702p, 0702q, 0702r, 0702s]。
- 0702 (4) 学生の相談については、全学的にオフィスアワーを設けて、主に指導教授が対応しているが、場合によっては学科主任や学部長も相談にのっている[0702t, 0702u]。全学の対応としては、学生相談室が設置されている。また、ハラスメント関連では、指導教授や学科主任に相談し、解決が難しい場合は学科会議の議題とする[0702v]。全学組織としては、相談窓口、相談委員、およびハラスメント対策委員会が適切、かつ、迅速に対応する体制をとっている。学生相談室、ハラスメント相談窓口に関しては、オリエンテーション時に配布するパンフレット、および、大学HPにおいて啓発情報や対応の手順等を説明している[0702l, 0702w]。
- 0702 (4) 心身の健康維持・増進については、全学組織として学生相談室、睡眠相談室、保健管理室、体育・文化センターが設置されており、特に学生相談室、睡眠相談室に関しては、オリエンテーション時に存在を周知している[0702l, 0702x, 0702m, 0702y]。
- 0702 (4) 安全への取り組みとしては、大規模災害の発生時に学生・教職員の被災状況を迅速に把握するための「安否確認通報システム」が導入されている[0702z]。また、中部大学防災対策協議会による『安全の手引き』や『安全必携・地震防災ハンドブック』が毎年改定されており、オリエンテーション時に配布・説明する他、大学HPにもデジタルブックとして掲載されている[0702za, 0702zb]。以上のように、生活支援面において、安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等は適切に行われ、関連部署により定期的に点検されている。
- 0702 (4) 学生が安定した学生生活を送るための生活支援としての奨学金制度は各種整備されており、必要に応じて指導教授は推薦書を書くなどして奨学金取得の支援を行なっている[0702zc]。
- 0702 (5) キャリア支援に関しては、各学科のキャリア開発委員がキャリア支援課と連携し、進路選択に関わるガイダンスやキャリア支援講座等、各種キャリア・プログラムへの誘導を行ったり、4年生の進路状況調査を毎月実施して未内定者をキャリア支援課に繋いだりしている[0702zd]。また、学内企業説明会の際には、キャリア開発委員を中心に教員が名刺交換に出かけ、企業担当者に挨拶をして学生たちの売り込みを行なっている[0702ze]。コミュニケーション学科では、これを構成員総出で行っている[0702zf]。さらに、心理学科では、独自に非常勤講師による就活講座・相談会・フォローアップ面談などを少人数で頻繁に実施している[0702zg, 0702h]。こうした支援体制の成果を示す数値として、2017年度には就職内定率は、最終的に98.2%となった[0702zi]。
- 0702 (6) インターンシップについては、学部共通の正課科目として「インターンシップ AB」を設置しており、2017年度の人文学部の受講人数は、54名であった[0702zj]。
- 0702 (8) キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化については、全学の各担当部署が学生の要望などを取り入れつつ適切に行っている。心理学科では、吉住准教授により行なわれている「学習教室きみいる」に学生が参加し、経済的困難をかかえる中学生の学習支援を行なっている[0702zk, 0702zl]。今後、学部教育改革に

よりプロジェクト科目を導入する際には、このような活動も1つのプロジェクトとして、学部全体から学生を募り、全学部体制で運営することが検討されている[0702zn]。	
長所・特色 ≪箇条書き≫ *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0702 (4)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション学科では、早い時期に新入生全員の面談を行い、状況を把握して問題点があれば早急に対応している[0702zm]。
項目 No.0702 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 心理学科では、非常勤講師による独自のキャリア支援活動により、2017年度に就職内定率100%を達成[0702zg, 0702zh]。
課題事項 ≪箇条書き≫ *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 0702 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 不就職者（就職を希望しない者）の人数が他学部に比べて多いため、その抑制の方策を検討する必要がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
コミュニケーション学科では、内定率向上のために、学科総出で学内企業説明会での名刺交換にのぞみ、何とか内定率100%を達成しようと努力した[0702ze, 0702zf]。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0702 (5)	心理学科で導入しているプログラムを他学科にも広め、学部全体の不就職者率の抑制とさらなる内定率の向上に努める。
0702 (5)	業者による提案などを受け、海外におけるインターンシップ・プログラムの開発も検討する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0702	a	A	学習支援室 キャンパスライフ 中部大学 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/study_support_room/
0702	b	A	日本語日本文化学科ゼミ担当者一覧
0702	c	A	英語英米文化学科ゼミ担当者一覧
0702	d	A	コミュニケーション学科ゼミ担当者一覧
0702	e	A	心理学科ゼミ担当者一覧
0702	f	A	歴史地理学科ゼミ担当者一覧
0702	g	A	地域活性化リーダー資格取得ガイド 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/whats/
0702	h	A	地域創成メディエーター資格取得のすすめ https://www3.chubu.ac.jp//tmp/documents/innovation_mediator/ad1d7fcfb2ca61a037a7f26b2e21cb9.pdf
0702	i	A	留学・海外研修プログラム 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/international_exchange/program/
0702	j	A	英語英米文化学科セミナー案内
0702	k	A	国際センターHP 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/organization/international_exchange/
0702	l	A	学生相談室 HP

			大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/counseling_room/
0702	m	A	保健管理室 HP 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/health_room/
0702	n	A	心理学科指導報告書作成依頼・指導対象一覧・報告書例
0702	o	A	コミュニケーション学科指導報告書例
0702	p	A	休学意見書例
0702	q	A	退学意見書例
0702	r	A	2017 年度 人文学部教授会第 1 回～第 11 回 議事録
0702	s	A	20170331 付退学者理由集計
0702	t	A	指導教授制・P.S.H.・オフィスアワー キャンパスライフ 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/teacher/
0702	u	B	2017 年度 人文学部授業時間割
0702	v	B	歴史地理学科 ハラスメント対応記録
0702	w	A	ハラスメントの防止等に関する指針 大学 HP https://www.chubu.ac.jp/current_students/warning/harrasment/index.html
0702	x	A	睡眠相談室 健康増進センターHP 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/sleep_consultation/
0702	y	A	体育・文化センターHP 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/organization/centers/gymnasium/
0702	z	A	安否確認通報システム HP 大学 HP https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/safety_confirmation_report_system/
0702	za	A	『安全の手引』（ただし H30 年度版） https://www2.chubu.ac.jp/current_students/digibook/students_safety_book/
0702	zb	A	『安全必携・地震防災ハンドブック』 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/digibook/handbook/
0702	zc	A	奨学金制度 大学 HP : https://www3.chubu.ac.jp/student_life/money/scholarship/
0702	zd	A	2017 年度学部内委員一覧
0702	ze	A	コミュニケーション学科 学内企業説明会名刺交換担当日程表
0702	zf	A	コミュニケーション学科 学内企業説明会企業担当分担表
0702	zg	A	心理学科 2017 年度第 11 回会議議事録
0702	zh	A	心理学科 就職委員からの就活支援活動実施アナウンス
0702	zi	A	2017 年度進路状況最終 4.15
0702	zj	A	2017 年度インターンシップ受講者数
0702	zk	A	学習教室きみいろ HP http://kimiuro.na.coocan.jp/
0702	zl	A	春日井市 子ども若者支援機関マップ p.27 http://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/413/29shienkikanmap.compressed.pdf
0702	zm	A	コミュニケーション学科 新入生面談記録例
0702	zn	A	人文整備充実（中間とりまとめ案）20170220, p.20, p.29
0702	zo	A	日本語日本文化学科 2017 年度第 1 回～第 11 回学科会議議事録 p.17
0702	zp	A	心理学科 2017 年度第 1 回～第 11 回学科会議議事録 p.7, p.14
0702	zq	A	英語英米文化学科 2017 年度第 1 回～第 18 回学科会議議事録 p.12, p.14, p.20, p.27
0702	zr	A	歴史地理学科 2017 年度第 1 回～第 11 回学科会議議事録 p.1, p.14, p.16, p.21, p.25, p.30

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

年度(対象年度: 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準8 教育研究等環境

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切なエビデンスに基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0802 (1) 日本語日本文化学科、コミュニケーション学科、歴史地理学科は、PC 設置 (54 台) 教室として 2514 講義室を共同利用・管理しており、機器は定期的に (6 年程度に 1 回程度) 更新されている [0802a]。また、語英米文化学科は、英語教育のためのソフトウェアをインストールした PC 設備のあるマルチメディアルームを活用している [0802b]。
0802 (1) コミュニケーション学科は、加えて映像・音響情報デザイン等の授業にメディア教育センター (全学組織) の映像スタジオ、音響・編集スタジオを利用しているが、テレビスタジオ・音響スタジオの機器は老朽化しており授業運営に支障が出たため、学科費で一部機器を購入した [0802c]。
0802 (1) 英語英米文化学科は、マルチメディアルームの機材更新に関して、中期予算計画に盛り込むなどの努力はしているものの、今後の更新の見込みは立っていない [0802・0806a, 0802・0806b]。
0802 (1) 心理学科は、心理実験棟に十分な実験設備を有しており、コンピュータや測定機材が最新になるよう維持している。また、2018 年度からの公認心理師対応に必要な心理相談室の 2021 年度開設を構想し、大学と交渉している [0802d]。
0802 (1) 歴史地理学科が利用している製図室と資料室 (複写室) については、重要な史料や地図を保管して教育・研究に有効に活用するには、現状ではまったく不十分である。史料を読むためのマイクロフィルムリーダー、史料作成のための一眼レフやマイクロフィルムカメラ、保管キャビネット等がない上に、作業のためのスペースが足りない。
0806 (1) 教育研究等環境の適切性については、各種設備・機器等の保守状況、稼働率などをエビデンスとして点検・評価し

ている[0806a, 0806b, 0806c, 0806f, 0806g]。 0806 (2) 点検・評価に基づく改善・向上に向けて大学に改善を依頼しているが、必ずしも実現には繋がっていないのが実情である[0806g]。	
長所・特色 ≪箇条書き≫ *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0802 (1)	<ul style="list-style-type: none"> メディア教育センターのテレビスタジオは、近隣大学の同種の設定の中ではかなり高レベルのものである。 英語英米文化学科では、マルチメディアルームの運営にあたって、授業だけでなく自習用にも施設を公開し、適宜、学生からの希望を聞き、できる範囲で対応している。
課題事項 ≪箇条書き≫ *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 0802 (1)	<ul style="list-style-type: none"> マルチメディアルームのPC・メディア教育センターの機器の更新、製図室・資料室の整備が必要。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> 「平成 30 年度の学部等重点事業計画」・「H30～34 年度中期予算計画調査票（臨時・新規案件）」には、英語英米文化学科のマルチメディア教室の英語多目的学習施設化（English Plaza、Active Learning 教室）、コミュニケーション学科のメディア教育センター内の機器の更新・充実、心理学科の心理相談室の設置の予算計画を記した [0802・0806a, 0802・0806b]。 英語英米文化学科は、部分的な対応として、サーバー更新と OS アップグレードを実施した [0806d]。 コミュニケーション学科では、全学施設であるメディア教育センターの機材の老朽化を受け、教育課程の特徴を維持するために、学科費から機材費を捻出して凌いだ [0802c]。また、この機材更新に関しては、人文学部の学部長裁量支援経費のうちの各学科のフィールドワーク用の費用も流用することとなった[0806e]。 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0802 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 予算折衝を通じて、マルチメディアルームのPC・メディア教育センターの機器の更新、製図室・資料室の整備を実現していく。 歴史地理学科では、新規資料室の設置について、教育・研究上の意義、収蔵されるべき資料、必要なスペース、管理方法等をまとめた書類を作成する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0802	a	A	2514・282A の PC 設備（2014 導入当時）
0802	b	A	英語英米文化学科 マルチメディア・ルーム PC 設備
0802	c	A	コミュニケーション学科 2017 年度学科費明細表
0802・0806	a	A	H30～34 年度中期予算計画調査票（臨時・新規案件）
0802・0806	b	A	平成 30 年度人文学部事業計画
0802	d	A	心理学科 相談室交渉資料(2017 年 10 月総合企画会議用)
0806	a	A	2514 講義室・282A 実験室 PC 利用実績
0806	b	A	英語英米文化学科 マルチメディア・ルーム利用実績
0806	c	A	コミュニケーション学科 メディア教育センター利用実績
0806	d	A	英語英米文化学科マルチメディア・ルーム サーバ更新

0806	e	A	2017年度学部長裁量経費使用明細
0806	f	A	平成30年度学部事業計画_人文学部 (追加)
0806	g	A	人文学部中期予算調査票 (追加)

提出区分 … A : 本シート追加資料と一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018年度(対象年度: 2017年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準9 社会連携・社会貢献

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A:適切に取り組んでいる」「B:概ね取り組んでいる」「C:改善すべき点がある」「D:今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2)社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3)地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0902 (2) 全学ではCOC事業として春日井市と連携し、各種プロジェクトを実施しており、人文学部の教員・学生も多数参加している [0902a]。
0902 (2) 人文学部は、他学部比べて生涯教育のオープンカレッジに開放している科目が多いため、地域住民に対して多大な貢献をしており、授業評価等を通してそのフィードバックを得ている [0902b, 0902c]。オープンカレッジ生(特にリピーター)による授業評価は、年度始めに聴講生一覧が出る際に、正式な形ではないが、話題に上り、学科内で情報として共有されている。
0902 (2) 英語英米文化学科では、高校英語教員を対象とした英語教育セミナーを年1回開催し、アンケートにより参加者からフィードバックを得ている。また、大学祭での研究発表展では、学生の研究内容について来場者に公開している [0902d]。
0902 (2) コミュニケーション学科では、社会連携・社会貢献を前提とした科目(日本語表現C)を実施し、成果を大学祭の研究発表展において公表することで社会に還元している。具体的には、授業内の合同研究発表会用のスライドを手直しして、大学祭では25号館玄関ロビーでポスター展示を行なった。(地元の来場者は3日間の合計でおよそ250人) [0902e, 0902l, 0902m]。また、映像制作を行うゼミでは、春日井商工会議所と連携して、企業のPRビデオを制作しているが、リクルート用やHPでのPR用に活用されるなど、一定の評価を得ている [0902f]。さらに、COC事業の中の地域交流への参加に取り組み、その結果として地域創成メディエーターを多数輩出している [0902g]。
0902 (2) 心理学科では、吉住准教授により2011年から「学習教室きみいろ」で経済的困難をかかえる中学生の学習支援が行なわれており、春日井市委託事業に認定されている。スタッフは主に心理学科の学生である [0902h, 0902i]。が、今後、学部全体にも広げていくことを検討している。
0902 (2) 歴史地理学科では、6月3日(土)に名古屋キャンパスにおいてシンポジウム「庭園を読み解く」を開催し、併せてキャンパスに隣接する鶴舞公園のガイドツアーを実施した。一般の参加者を含めて67名(ガイドツアーは37名)の参加があった [0902j, 0902k]。歴史地理学科は継続的に地元民を巻き込んでの地域研究活動を実施しており、例えば、2016年度は、COC事業の一環として、「春日井市松本町史の編さん事業と連携する地域史

研究」と題する活動を実施し[0902n]、最終的には「春日井市松本町による松本誌編纂と COC・地域志向教育の活動から」と題する研究発表会を行なった[0902o]。	
0903 (3) 心理学科においては、「学習教室きみいろ」を通して、地域交流も果たしている[0902h, 0902i]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0902 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 英語英米文化学科による高校英語教員を対象とした英語教育セミナー実施。 コミュニケーション学科による企業 PR ビデオ制作。 心理学科による「学習教室きみいろ」(春日井市委託事業)。 歴史地理学科による一般市民向けに鶴舞公園のガイドツアー実施。
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 0902 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 英語英米文化学科は、大学祭での研究発表展の内容の充実が課題。 歴史地理学科は、想定する参加者層に応じた PR の強化を図ることにより、今後のイベントの参加者数を増やすことが課題。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> 英語英米文化学科の英語教育セミナーでは、中高での英語教育に貢献できるよう、大学教員・中高教員を講師として迎えた[0902d]。 コミュニケーション学科では、2015 年度入学者以前のカリキュラムの中にある「日本語表現 C」では、地域をテーマとして教育研究を行い、その成果を発表する場を設けることで社会に還元することが多少なりともできた[0902e]。 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
0902	<ul style="list-style-type: none"> 英語英米文化学科では、大学祭での発表ポスターの質的・量的向上を図る。 コミュニケーション学科では、旧カリキュラムの「日本語表現 C」に代わり、新カリキュラム (2016 年度導入) の地域貢献型のプロジェクト科目を教育課程の特徴として据え、今後、さらに大きな規模での社会連携、社会貢献の取り組みを行っていく。 歴史地理学科は、外部団体等との共催によるシンポジウムの開催により参加者数を増やしていく。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
0902	a	A	COC 事業への人文学部生の参加一覧(地域創成メディアーター)
0902	b	A	2017 年度オープンカレッジ開講科目一覧
0902	c	A	2017 年度オープンカレッジ聴講生
0902	d	A	英語英米文化学科 英語セミナー開催案内
0902	e	A	コミュニケーション学科 2017 年度大学祭パンフレット
0902	f	A	コミュニケーション学科地域貢献映像制作実績例
0902	g	A	第 4 回地域創成メディアーター学生発表会
0902	h	A	学習教室きみいろ HP (根拠資料 0702zk 参照) http://kimihiro.na.coocan.jp/
0902	i	A	春日井市 子ども若者支援機関マップ p.27 (根拠資料 0702zl 参照) http://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/413/29s_hienkikanmap.compressed.pdf
0902	j	A	歴史地理学科 『GLOBAL Vol.11』(該当箇所 p.11))
0902	k	A	歴史地理学科 2017 年度第 3 回学科会議議事録

0902	l	A	2017 年度「日本語表現 C」シラバス
0902	m	A	2017 年度「日本語表現 C」研究発表用 PPT スライド
0902	n	A	春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業 平成 28 年度成果報告書 p.57
0902	o	A	コモンズセンター イベント案内 https://www3.chubu.ac.jp/commons/news/11070/

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

年度(対象年度: 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 (2)	人文学部教授会とそれに先立つ主任者会を毎月開催し、持続的に業務内容の点検を行っており、議事録を作成してメールにて構成員全員で共有し、承認している [1120a, 1120b]。
1120 (2)	ほとんどの学科では、定例学科会議を月に1回開催し、必要に応じて臨時学科会議も開催し、議事録はメールおよびWebで共有している[1120c, 1120d, 1120e, 1120f, 1120g, 1120h]。しかし、コミュニケーション学科では、2017年度は、主任の方針により、定期的な会議は開催されず、必要が生じた場合のみ集まって議論、またはメール審議した。また、開催された場合も、過去の経緯により、正確な発言者とその文言を記録に残すために、いわゆる「要点筆記」形式の議事録ではなく、「全文記録」形式の議事録を残してきた。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史地理学科では、学科会議の開催、および、議事録作成・確認の手続きを通して、学科管理運営に対する構成員のイニシアティブを活性化させている。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容が多岐にわたるため、会議日程の調整がうまくできないことがある。 定期的な学科会議の開催、議事録作成とその承認を全学科で徹底する必要がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
特になし。

< 今後の向上・改善計画 >

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
--------	------------------------

1120 (2)	定例学科会議を固定化し、その時間帯に行事や他の委員会等が入らないよう調整することで、定期的 開催できるようにする。また、開催した場合は、必ず議事録を作成し、出席者全員による承認を受ける システムを全学科で定着させる。
----------	--

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資 料記号	提出 区分	根拠資料の名称
1120	a	A	2017年度第1回～第11回主任者会議事
1120	b	A	2017年度第1回～第10回人文学部教授会議事録（差替）
1120	c	A	日本語日本文化学科 2017年度第1回～第11回学科会議議事録（根拠資料0702zo 参照）
1120	d	A	英語英米文化学科 2017年度第1回～第18回学科会議議事録（差替）（根拠資料0702zq 参照）
1120	e	A	コミュニケーション学科 2017年度学科会議記録（差替）
1120	f	A	心理学科 2017年度第1回～第11回学科会議議事録（差替）（根拠資料0702zp 参照）
1120	g	A	歴史地理学科 2017年度第1回～第11回学科会議議事録（根拠資料0702r 参照）
1120	h	A	コミュニケーション学科 2017年度メール審議記録（追加）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管